

調布スマートシティ協議会 2025(令和7)年度第1回幹事会 議 事 要 旨

日時： 2025(令和7)年4月18日(金) 15:00～17:00

会場： 調布市役所5階 市長公室(オンライン併用)

出席団体： 国立大学法人電気通信大学, 特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム,
(敬称略) アフラック生命保険株式会社, 京王電鉄株式会社, 調布市, 東日本電信電話株式会社,
日本郵便株式会社, 鹿島建設株式会社鹿島技術研究所, 多摩信用金庫, 株式会社東京スタジアム

会議資料：【資料1】令和6年度第3回幹事会議事要旨(案)

【資料2】調布あんしんコール実証事業総括(防災WG) ※一部公開

【資料3】お出かけ情報サービス進捗報告(移動WG) ※一部公開

【資料4】令和7年度の進め方について(案) ※非公開

【資料5】市民・市民周知WG活動報告

1 開会

■ 会長(今井副市長)からの挨拶

- 昨年度は、協議会設立から3年が経過したところで、これまでの取組を振り返りつつ、あらためてスマートシティがどういうものなのか、今後どのように市として取り組んでいくのかということを構成団体の皆さんと共有しながら、整理をしていきたいということを提起させていただいた。そして、産学官連携による社会課題の解決に向けて、令和9年度からの次期基本計画の策定を見据えて、スマートシティの戦略たるものをつくっていくための準備を皆さんと進めてきた1年間であった。
- その間、協議会の活動を市民に知っていただくためにも、議事要旨の公開など、PRにも努めてきた。また、2つの実証事業を行いながら、構成団体の皆さんとも、意見交換や進捗共有という形で連携してきた。
- 本日は、令和7年度どう進めていこうということが議題の中心となるが、スマートシティをめぐる国内外の潮流も変化してきている。こういった変化も捉えながら、調布として、どのようなスマートシティを掲げて取り組めば、参加される全ての団体にとって良い形になるか、参加団体の皆さんの考えも伺いながら、考えをブラッシュアップできればと思う。

■ 各構成団体からの挨拶・出席者紹介

2 報告事項

(1) 前回幹事会の議事要旨確認【資料1】

■ 事務局から説明

- 前回出席者への事前確認を踏まえて事務局で作成した議事要旨案を提示

■ 資料のとおり承認され、確定

(2) 各実証事業の進捗状況

ア あんしんコール実証事業について(防災WG)【資料2】

■ 防災WGからの取組説明

- 令和6年度の本実証を通じた気づきについて、総括的に共有する。関係者で事業そのものの評価を行ったうえで、協議会においては、令和6年度に設定した協議会のMVVを踏まえた検証の視点を共有する。今後実証を重ねていくにあたって、次に繋がる知見を得られればと考える。
- 主なポイントとして、市民生活の実態やニーズを事前に把握することの重要性と、実証中にもそういった市民のニーズや反応に応じて、実証内容等を柔軟に変えながら検証することで、より実証の効果が向上するとの示唆が得られた。

■ 主な質疑・意見

- 「申し込みに家族の同意を得難い」背景には、実効性や安全性を担保するために本人と家族の双方に参加条件を設定していた中で、関心を持ってくださった方全員において、条件が合致するペアを見つけることが難しかったという事情がある。
- 本事業について報道等でも扱われたことで、根拠を持って検証するのは難しいが、市域での犯罪抑止に繋がる一定の効果もあったのではないかと考えている。いずれにしても、まさに市民生活の課題となっていることに協議会として取り組めたことに価値があった。
- 市が単独で実施しているのではなく、民間企業の先進技術を活用し、協議会の取組として行っている事業であることに対して、市民が関心を寄せている様子が伺えた。先進技術をフックとして、協議会やスマートシティの取組に市民の関心を引ける示唆となった。

イ お出かけ情報サービスについて(移動WG)【資料3】

■ 移動WGからの取組説明

- 令和7年度は、市長会助成金を受けて行う実証の最終年度であり、引き続き、本サービスの利用促進に努めるとともに、実装した各機能の利用状況や市民のニーズ等を把握し、効果検証を行う必要がある。
- 電気通信大学の入学式に併せて、構内で本サービスのPRを行った。また、今後、集客が見込まれるイベントに出展し、その場で本サービスに触れていただきながらモニターアンケートを行う予定。
- 協議会の構成団体においては、効果検証に用いるアンケートを事前評価し、設問が適切か確認に協力いただきたい。

■ 主な質疑・意見

- お出かけ情報サービスへのアクセス全体の8割は、調布市の公式LINEからである。誤操作によるアクセスも想定され、サイト滞在時間の平均値を下げているという問題はあるが、多くの方に体験していただくため、LINEのメニューを積極的に押しただけのような工夫をしては。
- 特にユーザビリティに配慮する本サービスのようなものは、アジャイルで開発していく必要があると考える。最近では、ベンチャー企業等と開発に取り組む中で、デザインをアジャイル的に変更していくことを前提に進めるべきという考え方が出てきている。協議会の取組においても、従来のよう

な要件定義から始めるのではなく、デザインのコンセプト等を共有したうえで、具体は一緒に作り上げていくというやり方が馴染む可能性があるのではないか。

(3) 「(仮称)調布市スマートシティ戦略」の策定に向けた取組について(事務局)

■ 事務局からの情報共有

- 調布市では、市が目指すスマートシティの今後の方向を定めるための「(仮称)調布市スマートシティ戦略」策定支援業務委託事業者候補選定プロポーザルを4月4日(金曜日)に公示した。参加申込は4月18日(金曜日)正午(※本幹事会当日)に既に締め切っている。6月下旬に事業者候補が決まる予定。

3 協議事項

(1) 令和7年度の進め方について【資料4】

■ 事務局からの補足説明

- 「(仮称)調布市スマートシティ戦略」は、市として、どのような「スマートシティ」を目指すのか、市民とも共有できるよう言語化を図るもの。そのうえで、次期基本計画との整合を図りたいことから、令和8年度当初の策定を目指す。
- 昨年度の議論の結果、市の「(仮称)調布市スマートシティ戦略」策定に向けた取組との連動を図り、戦略において今後の取組の軸に据えようとしている「市民起点(ニーズや市民の現況に基づく取組検討)」、「データ利活用」をテーマに、協議会として実践を通した議論を行うことで、産学官民連携により各取組を進めるうえでの留意点や課題を洗い出し、戦略策定への示唆や、その後の協議会活動につなげることを目的に、既存のWGとは別に、プロジェクトチームを設置することとなった。本日は、各PTの具体について検討を進めたい。

■ 主な意見

- これまで、協議会として市民ニーズやデータ利活用について議論するということは十分できていなかったもので、議論することそのものに価値があると認識。
- 市民ニーズ等現況の把握については、アプローチの一つとして、国が用意しているWell-Being指標測定アンケートフォームを活用し、市民のニーズや満足度・幸福度の向上に相関性の高い領域・分野を調査・分析することとする。
- プロジェクトチームで話し合われたことがどのように市の戦略策定に生かされるのか、策定のプロセスとあわせて示されると、各構成団体が協力するモチベーションに繋がるのではないかと。
- 「データ利活用」というテーマで扱える領域は非常に広いと感じており、プロジェクトチームで議論を煮詰めたいポイントがどこにあるかということ、走りながらでもつかんで、的を射た活動になるようにしたい。市が市民参加の取組をする中で、視点が定まってくることがあれば、それをチームにフィードバックすることなどにより、場合によっては各社から参加するメンバーを入れ替えながら、有意義な意見交換ができればと思う。
- アジャイル開発に適したチーム構成は、10人が上限になると言われている。各社の持ち寄れるリソースを確認しつつ、意見交換しやすい規模になるよう調整しては。

- プロジェクトチームの活動で得られた知見については、協議会の財産として共有し、市としては戦略策定に生かしたいと考えている。各構成団体においても、どのような価値を見出せるかという考えと合わせて参加を検討いただきたい。
- プロジェクトチーム設置に当たっては、後日各構成団体へ個別にヒアリングを実施のうえ、引き続き検討を進めていきたい。

4 各構成団体からの情報提供など【資料5】

- 各構成団体から活動状況や関連イベント等について情報提供
- 市民WGから資料共有

5 事務連絡・閉会